

マツシ ヤスヒコ
松石 泰彦 教授
経営学部 経営学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書 『現代の山科 1 20 世紀の山科』『山科の歴史と現代』山科経済同友会 (共著) :2020/03
- ・著書 『企業城下町の形成と日本の経営』同成社 (単著) :2010/07

【論文】

- ・学術論文 「典型的企業城下町・釜石の栄枯盛衰とこれから」地理 古今書院 64:34-41 (単著) :2019/01
- ・学術論文 「現代の CSR 論における社会貢献活動の位置と展望」京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集 (12):27-44 (単著) :2018/03
- ・学術論文 「戦前期釜石製鉄所の経営状況－『真板資料』を中心に－」岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要 第 25 巻 (第 2 号):1-11 (単著) :2014/12

【学会発表】

- ・『真板資料』にみる 20 世紀前半の釜石製鉄所の経営 (第 68 回東北経済学会大会) :2014/09
- ・釜石製鉄所真道会の特質と 1919 年労働争議 (岩手史学会大会報告) :2009/07/05
- ・企業城下町形成における工場委員会－戦間期釜石製鉄所の真道会をめぐって (岩手史学会大会報告) :2007/12/09

キーワード

企業論 企業城下町 CSR フィランソロピー サステナビリティ SDGs

対応可能なもの ☐講演 ☐研修 ☐研究相談(学術指導) ☒学術調査 ☒コメンテーター ☐共同研究・受託研究

企業が町に与える影響と果たすべき責任を考える

研究の概要

企業はそれ単体で存在・持続できるわけではなく、多くのステークホルダーとの関係性の中で存続していく社会的な存在です。企業が立地する地域や町は、直接的に大きな影響を受けやすく、雇用や税などの経済面のみならず、文化や意識においても、企業との関係性が顕在化し、町の様相を大きく左右します。特に「企業城下町」においては、企業の影響と役割、それにともなう責任はより大きなものとなります。

また最近では、SDGsをはじめ CSR への社会的要請が強まって、企業は CSR を戦略やマーケティングに組み込んで自社と社会の両方のサステナビリティを追求するという動きが増えています。

当研究では、特に立地地域・町と企業との関係を中心に、企業の果たすべき社会的役割の事例研究やそれをベースとしたとるべき方法論について探求しています。

研究の詳細

☐研究・技術のプロセス ☒研究事例 ☐研究成果 ☐使用用途・応用例 ☐今後の展開

主に「企業城下町」とよばれる町を中心に、企業と地域社会の関係性を歴史的事例から明らかにしてきました。そこには立地企業が地域にもたらす経済的恩恵と、環境的悪影響や事業縮小・撤退による悪影響という「光と影」の問題だけでなく、企業側・地域側それぞれの意識や社会・文化的な影響があり、それらの側面が将来的に町をどのように魅力的でサステナブルなものにするかの重要な要素となります。

今日の企業行動の中では改めてフィランソロピーに注目しています。ステークホルダーとして株主・経営者・従業員だけではなくコミュニティも大きな存在である今、寄付、プロボノやボランティアなどを通じたコミュニティとの関わりを中心に、フィランソロピーの実践とその方法の探究が重要でしょう。またその実践を実現するための方法として、企業文化とコーズリレーテッドマーケティング (CRM) の事例を研究しています。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・SDGs の多様な目標のなかで、コミュニティへの対応のあり方についての情報提供